

声が届かず騒がしい保育室から、子どもの声が自然に響き合う環境へ

# 子どもと音環境

つぶやきが聞こえる環境づくり

一般社団法人

こどものための音環境デザイン(ADC) 編

野口紗生・船場ひさお 編著

A5判並製・208ページ

ISBN 978-4-87168-730-0

定価2,420円

(本体2,200円+税10%)

2025年10月末刊行



保育現場で子どもが大声を出したり部屋から飛び出したりする行動の背景には、「騒がしくて聞こえない」「音がつらい」といった要因が潜んでいるかもしれません。

本書では、そうした子どもたちにとっての「音の世界」を想像しながら、少しでも居心地のよい環境を整えるための視点をお伝えします。



## 本書の構成

序章 音の環境から保育を考える  
—子どものつぶやきが聞こえる環境へ—

### 第Ⅰ部 施設環境について考える

- 第1章 子どもの育ちを支援する建築設計を目指して
- 第2章 保育・教育施設の音環境
- 第3章 保育環境デザインにおける音  
—保育環境計画の視点から—
- 第4章 保育施設の床衝撃音
- 第5章 窓辺から空気環境・音環境を考える  
—都市部の保育施設の空気環境調査に基づいて—

### 第Ⅱ部 子ども・保育と音環境の関わり

- 第6章 子どもと保育者の「聞こえ」を支え、育てる保育室
- 第7章 保育実践と音環境との関わり
- 第8章 音以外の様々な「キー」と、  
音環境の視点を持つことの意味
- 第9章 感覚過敏と音環境
- 第10章 音環境を活かした保育へ  
—多様な子どもたちの育ちを支える音環境—

### 第Ⅲ部 地域社会・文化の視点から

- 第11章 音環境から考える地域と保育のつながり
- 第12章 ドイツにおける子どもと音環境  
—子どもと保育者の権利から考える環境づくり—

終章 園の落ち着きと音環境  
—子どもの育ちを支える環境づくり—

一般社団法人こどものための音環境デザイン(ADC)とは…

日本建築学会子どものための音環境ワーキンググループ活動を経て2020年3月3日(耳の日)に設立。こどもたちの健やかで豊かな育ちを支える音環境づくりに取り組んでいる。

ご注文は、お近くの書店・販売店へ

エイデル研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9  
TEL.03-3234-4641 FAX.03-3234-4644

|     |        |     |                                            |                              |
|-----|--------|-----|--------------------------------------------|------------------------------|
| 注文書 | 取扱店    | 注文数 | 子どもと音環境 一つつぶやきが聞こえる環境づくり—<br>野口紗生・船場ひさお 編著 |                              |
|     |        | 部   | 定価2,420円(本体2,200円+税10%)                    | ISBN 978-4-87168-730-0 C3037 |
|     | 氏名/団体名 |     |                                            |                              |
|     | 住所 〒   |     |                                            |                              |
|     | TEL    |     |                                            |                              |

## こんなことはありませんか？

騒がしいのが  
苦手な部屋から  
出ていってしまう

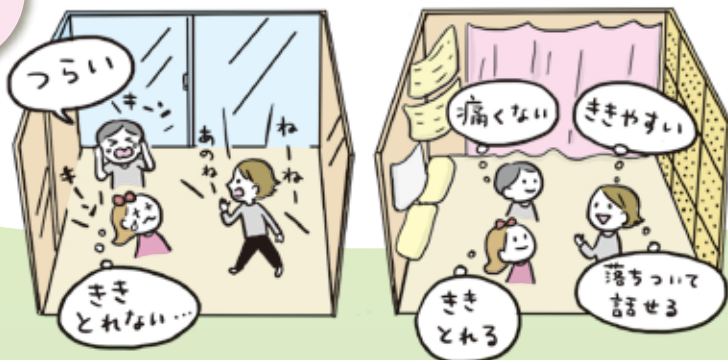
子どもが  
落ち着かない

大声で叫ぶ

保育士の声が  
届きにくいな

大きな音が苦手

さすがに  
ちょっと  
にぎやか過ぎる



### 音環境の ポイント

イラスト：うつろあきこ

#### ① 新築園舎で あっても 音の問題が多い

ガラス張りの大きな窓や吹き抜け空間、木をふんだんに使った内装など、視覚的に美しいデザインの園舎は全国に増えています。

ところが、そうした素材の多くは音を反射するため、結果として音が響き過ぎ、子どもの声やおもちゃの音が増幅されてしまうのです。「見た目は素晴らしいのに、なぜか落ち着かない」「なんとなく耳が疲れる」といった現場の声は、まさに音環境の影響を反映しています。

#### ② 解決の ポイントは 「吸音」にあり

「部屋が響き過ぎる」問題への対策としては、「吸音」することが有効です。

「吸音」とは、音を吸い込むのではなく、子どもの大切なつぶやきを聞くために余分な響きを消すこと。まずは、保育室の内装（天井や壁など）に吸音する材料を使うことが大切です。大がかりな工事を行わなくても、吸音材を貼ったパーティションやボックスなどで「吸音コーナー」をつくったり、カーテンを「吸音カーテン」に変えるなど比較的簡便な方法もあります。



#### ③ 音環境の改善を 体験した現場の 先生方の声

「騒がしさが低減し、言葉を聞き取りやすくなりました」

「吸音した部屋から吸音されていない部屋に戻ると、音が気になって仕方がないです」

「音のことをわかるようになると、子どもの苦しみや気持ちももっとわかるようになりました」

「職員自身も、自分の声が大きいのではないか、とか、色々な気づきが得られました」

「保育の助けになると思います」

本書には、「吸音による聞こえ方の違い」などを体感的に理解できる複数の動画（QRコード）が付いていますので、ぜひ「音の世界」を体験してみてください。

工夫次第でここまで保育室の響きが変わる！  
実際に保育室の響き比べを体験してみてください

こどものための音環境デザイン(ADC)「保育室の響き 聴き比べ」

